

指導資料



鹿児島県総合教育センター

総合的な学習の時間 第14号

－小・中学校・特別支援学校対象－

平成24年4月発行

総合的な学習の時間の学習評価の進め方 －評価の観点及び評価規準の設定－

総合的な学習の時間（以下「総合」という。）では、探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく力を育成することが求められおり、各学校では、その育成に向け、創意工夫を生かした教育活動を展開している。

これらの活動を通した「総合」の評価においては、「各学校が自ら定めた評価の観点を記載した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する¹⁾」ことが示されている。

そこで、本稿では、児童生徒の資質や能力を評価する基本的な考え方について、観点別学習状況の評価の考え方を基に、各学校における評価の観点、評価規準の設定等の在り方について実践例を挙げながら述べる。

1 「総合」における評価の観点

「総合」においては、児童生徒に対して育てようとする資質や能力及び態度が学校ごとに異なることから、それらがどのように育まれ、何を学びとっているか

など学習の状況をバランスよく総合的に評価する必要がある。児童生徒の資質や能力は、多様であるため、教科と同じく評価の観点や評価規準を設定し、評価活動を適切に進めていくことが大切である。

各学校においては、目標や内容、育てようとする資質や能力を踏まえ、学校としての評価の観点を次のような手順で設定する必要がある。

- ① 自校の教育目標を分析する。
- ② 育てようとする資質・能力・態度を検討する。
- ③ 「総合」の学習内容との関連を図る。
- ④ 自校の評価の観点を設定する。

観点設定の際、「通知¹⁾」，「評価方法等の工夫改善のための参考資料²⁾」に示された、以下の評価の観点を参考にし、自校の教育課程の内容等と照らし合わせて活用するとよい。

(1) 「総合」の目標を踏まえた評価の観点例

【よりよく問題を解決する資質や能力】
【学び方やものの考え方】
【主体的、創造的、協同的に取り組む態度】
【自己の生き方】 等

この観点例は、「総合」の目標の実現状況を評価することに直接的につながる

ところに大きな特徴がある。また、この例示には「自己の生き方」という観点があり、「総合」で目指す「自己の生き方を考えることができる」について、その実現状況を評価できることも特徴である。

(2) 資質、能力、態度を踏まえた評価の観点例

学習指導要領に示された「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って、各学校で定めた育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた評価の観点例である。

【課題設定の力】	(学習方法)
【情報収集の力】	(学習方法)
【将来展望の力】	(自分自身)
【社会参画の力】	(他者や社会とのかかわり) 等

育てようとする資質や能力及び態度とは、各学校において定める「総合」の目標を、実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示したものである。

上記の観点例は、実現したい児童生徒の姿を想起しやすいことがその特徴である。

(3) 各教科の評価の観点との関連を明確にした評価の観点例

【関心・意欲・態度】	【思考・判断・表現】
【技能】	【知識・理解】 等

これらの観点の設定により、各教科で育てようとする資質や能力及び態度との関連が明確になるとともに、学習課題や学習対象、学習事項などについて実現状況を評価しやすくなることが、その特徴である。

2 単元の評価規準の設定

単元の評価規準を設定する場合、学校で定めた評価の観点に即して、目指すべき児童生徒の学習状況を具体的に想定し、児童生徒にどのような力が付いたかを見取る視点として設定する必要がある。

その際、「総合」においては、単元を数十時間以上の長い時間で計画する場合も多いことから、単元の主な学習活動の場面を想定しながら、実際の児童生徒の姿として具体的に評価規準を記述する必要がある。以下は、学習活動の場面を想定した評価規準の設定例である。

学習活動の場面を想定した評価規準の設定例

学習内容	体験活動等を通して自分たちの住んでいる地域を知り、よりよい町づくりという視点でまとめ発表する。 (全20時間) ※【 】は、観点
評価規準	【課題設定の力】 自分の住む町の産業や町づくりについて関心をもち、体験活動から生まれた気づきや疑問を、課題として設定している。
学習活動場面	地域講師の講話や職場体験学習を通して価値ある課題を設定している場面
評価規準	【情報収集の力】 調べ学習や地域の人々に対するインタビューなど様々な方法を工夫して、必要な情報収集している。
学習活動場面	体験を通じた感覚的な情報や数値化された客観的な情報を、探究学習のために適切な方法で累積している場面
評価規準	【まとめ・発表する力】 収集した情報について、視点を設けて整理してまとめ、分かりやすく伝えている。
学習活動場面	収集した情報を町づくりという視点から複眼的に分析し、ポスターやパンフレットにまとめたり、発表を効果的に行ったりしている場面
評価規準	【協同的に取り組む態度】 他の生徒と協力して調査したり、地域の人人の考えを聞いたりして、よりよく課題を解決しようとしている。
学習活動場面	友達と、見通しや計画を確認し合ったり、地域の専門家の協力を得て、自分の意見を再構築したりしている場面

3 「総合」の評価方法

「総合」で育まれる力を評価するに当たっては、それぞれの評価規準に基づき児童生徒の姿を適切に見取れるよう、多様な評価方法を考える必要がある。

ア 観察による評価

発表や話し合いの様子、学習や活動の状況などを観察に基づき評価する方法である。学習活動の過程を評価し、指導に生かすことができる。

イ 制作物による評価

レポート、ワークシート、作文及び絵などの制作物（結果）とその制作過程を通して評価する方法である。児童生徒の発想や気付きなどを学習活動の過程を通して評価することができる。

ウ ポートフォリオによる評価

学習活動の過程や成果などの記録や作品を児童生徒が主体的・計画的に集積したファイルによる評価方法である。活動計画表や自己評価の記録などの資料から、問題解決や探究の過程を評価することができる。

エ パフォーマンス評価

発表やインタビューなど課題解決の場面において、探究的な学習において身に付けた力を、実際の課題解決の場で活用できるかを見取る評価である。

オ 自己評価

評価カードや学習記録などから、児童生徒自らの学習の状況を振り返ることによる評価である。自己の高まりや成長といった変容を実感し、学習意欲の向上に役立てられる。

カ 相互評価

振り返りシート等において、児童生徒が互いの学習状況を評価するものである。他人の評価を受け止める力の育成が図られる。

4 実践例（小学校第3学年）

本実践例では、「総合」の目標を踏まえた評価の観点に基づき、町の伝統行事等を通した学習活動において、期待される児童の姿を想定した評価規準が設定されている。

(1) 単元名

「つないでいこう、この町の行事」

(2) 単元の概要

ア 単元の目標

伝統行事に関する交流体験や調べ活動を通して、地域における行事の継承に取り組む人々の思いを理解し、将来の担い手として今できることを考え、実践できるようにする。

イ 単元で育てたい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- (ア) 手段を選択し、情報を収集する。
- (イ) 相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現する。

【自分自身に関すること】

- (ウ) 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。

【他者や社会との関わりに関すること】

- (エ) 異なる意見や他者の考えを受け入れる。

ウ 単元で学ぶ内容

- (ア) 地域の伝統行事の内容とそれに携わる人々の様子
- (イ) 伝統行事に関する現状と課題
- (ウ) 課題の解決や伝統行事を継承し、地域行事を発展させるための取組

(3) 単元の評価規準

観点	よりよく問題を解決する資質や能力【資】	学び方やものの考え方【学】	主体的、創造的、協同的に取り組む態度【態】	自己の生き方【自】
単元の評価規準	町の伝統行事について、目的や相手に応じて自分が伝えたい情報を取捨選択してまとめ、捉えている。	町の伝統行事の現状を知るために、目的や相手に応じて、調査方法、記録の仕方などに留意しながら調べている。	伝統行事を継承している人々について、既存の知識と交流体験を通して得た気付きとの違いなどから関心をもち、行事を継承することの課題を考えようとしている。	伝統行事を継承する人々の立場に立って考え行動することの大切さに気付き、自分ができることを考えて実践している。

(4) 指導と評価の計画（20時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価の観点 評価方法
1 この町の行事について見よう (5時間)	- 町の伝統行事についての捉えを發表し合う。 - 伝統行事の保存会の方と交流し、行事を体験する。 - 交流体験で考えたことを基に課題を設定する。 - 伝統行事を継承することの大切さや課題を探究するための学習計画を立てる。	【資】観察による評価（行動観察・発言）
2 行事を行っている人について調べよう (6時間)	- グループで、伝統行事の現状を調べるための内容や方法を話し合う。 - 地域の高齢者を訪ね、当時の行事の様子等についてインタビューする。 - 市の教育委員会の方にインタビューする。	【学】制作物による評価（インタビューの記録）
3 自分たちができることは何だろう (5時間)	- 伝統行事との関わりについて、自分たちにできることを考える。 - 自分たちが考えた関わり方について、行事の保存会の方を学校に招待して發表し、意見を交換する。 - いただいた意見を基に、更に検討を加える。	【態】制作物による評価（学習シート、發表資料、振り返りカード）
4 自分たちの考えを町に広げよう (4時間)	- 地域の伝統行事についての学習を振り返り、自分が感じたことや考えたことをまとめる。 - 伝統行事を継承することの思いやそのよさ等について、実際の行事の中で發表する。 - 単元全体の学習を振り返り、カードにまとめる。	【自】観察による評価（行動観察）、自己評価・相互評価（振り返りカード）

「総合」の評価においては、児童生徒の学習状況について望まれる姿を想定し、実際の学習状況と照らし合わせて、丁寧に見取る必要がある。各学校においては、「総合」の目標や内容を定めるとともに、適切に観点を定め、児童生徒の学習の姿を基にした評価規

準を設定することが重要である。

- 参考文献 -

- 1) 文部科学省『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）』平成22年5月11日
 - 2) 国立教育政策研究所『評価方法等の工夫改善のための参考資料』平成23年9月
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』平成20年9月 東洋館出版社
『中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』平成20年9月 教育出版

（教科教育研修課）

